

船舶事故等調査報告書

平成23年3月31日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010広第195号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成22年9月17日 12時15分ごろ	
発生場所	広島県福山市福山港 箕沖町の県営ヤード岸壁前面水域 JFEスチール福山港新涯導灯（前灯）から真方位127° 1,830m付近 （概位 北緯34° 26.9′ 東経133° 25.4′）	
事故等調査の経過	平成22年11月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 押船 第二十二住力丸、116トン 133077、有限会社住力商事 B はしけ S-23、1,046トン なし、有限会社住力商事	
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	A船のプロペラに曲損、B船前部船底のスパットホール周囲に亀裂	
事故等の経過	A船は、船首尾約1.2mの等喫水となった空船のB船の船尾凹部に嵌合して全長約78mの押船列（以下「A船押船列」という。）を構成し、船長ほか3人が乗り組み、船首約2.2m、船尾約3.5mの喫水をもって、平成22年9月17日11時55分ごろ、福山港箕沖岸壁を発し、同岸壁の北西方約1,000mの県営ヤード岸壁に向けて航行中、12時15分ごろ、県営ヤード前面に存在する浅所に乗り揚げた。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力2、視界 良好 海象：潮汐 低潮時	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし A船押船列は、福山港において着岸作業中、岸壁の前面に存在する浅所を隔てた針路で航行しなかったことから、同浅所に乗り揚げたものと考えられる。 A船押船列は、過去に幾度も、県営ヤード岸壁に係留したことがあり、船長は、同岸壁前面に浅所が存在していることを知っていたものと考えられる。 船長は、A船押船列を県営ヤード岸壁に接岸する際、いつもは、浅所を避けるようにして西側から回り込んだ後に接岸していたが、本事故発生当時は、県営ヤード岸壁の通常接岸位置から東方約50m付近に向首し、直接、同岸壁に接岸しよう

	としたものと考えられる。
原因	本事故は、A船押船列が、福山港において着岸作業中、岸壁の前面に存在する浅所を隔てた針路で航行しなかったため、同浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。